

# キンタイ新聞

平成27年 NPO法人  
ニッポンバラタナゴ  
高安研究会 発行

No.14

少しずつではありますが、春の気配が感じられる季節になってきました。  
皆さんお元気ですか？ キンタイ新聞14号ができました！

## 森林整備って何するの？

高安山のケーブルから南側16ヘクタールと大阪経済法科大学花園の森2ヘクタールの森林整備を実施しています。  
里山の水の循環機能を向上させるのが目的でニッポンバラタナゴの保護のためにも重要な活動です。

活動内容は？

1. 伐採による土留めと下草刈り
2. 森林資源(バイオマス)の利用
3. 遊歩道を利用した環境教育場づくり

高安山の君川水源地周辺の森林整備によって遊歩道が完成しており、学生を対象とした里山観察会を年10回程度実施し自然環境学習を行っています。

国指定の文化遺産である千塚とともに、エコ・ツーリズムの可能性を追求していきます。

ニッポンバラタナゴを保護するため、その周辺環境や地場の産業を活性化するのも当会の重要な活動です。ニッポンバラタナゴ保護につながる様々な活動を紹介します。

月1回第1日曜日に実施していますので興味のある方はぜひご参加下さい。

## ドビ流し in ぶれあい池

11月9日にいきいき八尾環境フェスティバル 第2部山がありました。その中で大阪経済法科大学のぶれあい池のドビ流しを実施。

ニッポンバラタナゴ 3100尾(推定)  
ヨシノボリ 1368尾  
メタカ 12尾  
モツコ 25尾  
フナ 33尾  
ドブカイ 4000個体(推定)

11月30日から12月2日に久宝寺緑地の心字池でドビ流しが行われました。当会はアドバイザーとして参加しました。市民の方も参加され水のなくなった池から魚たちを救出しました。ヘドロを流し、今年度中にきれいになった池に魚は戻されます。

久宝寺緑地は都会での自然再生の場として、様々な活動をともにしていると考えています。



## きんたい米

コウノトリ米などで全国で里山の希少種とお米を結びつけた商品が発売されていますが、昨年秋に当会もついに乗り出しました。

ニッポンバラタナゴの保護池の水を利用して栽培したお米を“きんたい米”と名づけました。栽培者はお米に付加価値がつくことで利益が得やすくなり、消費者は環境に配慮した安全安心なお米が食べられる。

そしてきんたい米が増える→保護池が増える

そんなwin-winな商品がきんたい米です。

今年は2kgのパックを作り、八尾の広報施設に展示してもらっています。

販売は今年の秋の予定ですが、会員価格の販売も検討中です！

かわちもめん 甘河内木綿 昨年、河内の木綿は順調に育ち、約14kg収穫できました。ニーズを知るためにネット販売してもらっています。また、大阪経済法科大学の学生と一緒に育成→紡ぎ→染色→商品化までを学内で完結させるプロジェクトも始動しました。

河内木綿の栽培を高安地域で復活させる方法を模索中です。

伝統的な作物を現代のニーズにどう合わせるかがカギだと感じています。

キンタイ米、河内木綿の両方が、地元の生産業を活性化させる重要な活動です！

## 自然再生協議会の視察団が来ました！

1月6日、高安に自然再生協議会の視察団が来ました。

大阪経済法科大学の様子や環境フィールドスタディの様子などを見られました。

フィールドスタディでは学生が自ら考え行動に移していくのを見て、皆さん驚かれていました。

1月7日には前日の視察を踏まえて高安自然再生協議会の実施についての発表と質疑が行われました。

ドビ流しという伝統的な手法を用いて地域活性や環境保全を図っている事

木綿やきんたい米など地元の産業を活用し、自然再生とつながりを持たせていることなどが好評でした。

